

授業科目名	環境教育論
科目番号	CB25081
単位数	2.0 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	春AB 金5,6
担当教員	山本 容子
授業概要	環境教育の歴史、目標、内容、方法についての基礎的理解を図ることを目的とする。環境教育の発展過程・現状・課題を探りながら、環境教育の目的や方法と環境教育の授業の構成と展開の特質等を学び、今後の環境教育のあり方を考察する。可能なかぎり環境教育の授業の観察(ビデオ等)、野外での活動・観察も含める。
備考	社会教育主事 実務経験教員 対面
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	協働性・主体性・自律性、教育学の基礎的体系的知識、教育学における総合的思考力
授業の到達目標(学修成果)	(1) 国内外の環境教育および持続可能な開発のための教育の歴史、目標、内容、方法の基礎について学び、その特徴を説明することができる。 (2) 環境教育および持続可能な開発のための教育の方向性を定位する環境思想の系譜と特徴について学び、今後の環境教育のプラットフォームについて考察することができる。 (3) 自然を直接体感する環境教育プログラム、環境の現状を調べる教材を活用した環境教育プログラムの内容を体験的に学び、その技術を習得する。 (4) 国内外の子どもの環境意識の傾向を知り、上記(1)～(3)を踏まえて、環境教育の意義・課題・展望を把握し、検討することができる。
授業計画	環境教育の発展過程・現状・課題を探りながら、環境教育の目的や方法と環境教育の授業の構成と展開の特質等を明らかにする。可能なかぎり環境教育の授業の観察(またはビデオ)、野外での活動・観察も含める。 第1回 オリエンテーション(「環境」とは何か、「環境教育」とは何か、SDGsと環境教育)。 第2回 国際的な環境教育の源流(1960年代～：環境教育誕生の背景) 第3回 国際的な環境教育政策の展開(1)(1970年代～：環境教育の誕生と展開) 第4回 国際的な環境教育政策の展開(2)(2000年代～：持続可能な開発のための教育(ESD)としての環境教育の発展) 第5回 持続可能な開発のための教育(ESD)としての環境教育の特徴(SDGsとの関連も踏まえて)。 第6回 日本と海外の環境教育の授業の実際(文部科学省教師教育ビデオ、及び、海外の環境教育の動画の視聴を含む)。 第7回 自然を直接体感する環境教育プログラム:ネイチャーゲームを体験する野外実習・前半。 第8回 自然を直接体感する環境教育プログラム:ネイチャーゲームを体験する野外実習・後半。 第9回 環境思想の系譜を辿る(日本の自然観と西洋的自然観との比較)。 第10回 環境思想の系譜を辿る(人間中心主義的環境思想と環境主義的環境思想の展開)。 第11回 環境思想の系譜を辿る(ディープ・エコロジー等の代表的な環境主義的環境倫理に関する考察)。

授業計画	<p>第12回 環境倫理思想を導入した環境教育の試み</p> <p>第13回 アメリカの環境教育の変遷と特質(1960年代～：環境思想の展開との関連を踏まえて)。</p> <p>第14回 アメリカの環境教育の変遷と特質(1990年代～：環境思想の展開との関連を踏まえて)。</p> <p>第15回 環境の現状を調べる教材を使ってみる・前半(パックテストを使って水質を調べる実験実習)。</p> <p>第16回 環境の現状を調べる教材を使ってみる・後半(パックテストを使って水質を調べる実験実習)。</p> <p>第17回 日本の子どもの環境意識・行動様式の特徴(他国の子どもとの比較を通して)。</p> <p>第18回 環境教育の意義・課題を考える。</p> <p>第19回 環境教育の展望(これからの環境教育の世界的な潮流)。</p> <p>第20回 これからの日本の環境教育のあり方を考える</p> <p>第21回 試験</p> <p>「自然を直接体感する環境教育プログラム:ネイチャーゲームを体験する野外実習」および「環境の現状を調べる教材を使ってみる(パックテストを使って水質を調べる実験実習)」の実施内容、場所、日程や実施形態は、受講者数、外部講師の予定、天候等の諸々の状況によって検討し、決定する(授業計画の順番からの変更あり)。</p>
履修条件	
成績評価方法	<p>試験(70%)、小課題・授業参加への積極性(30%)を総合して判断する。</p> <p>総点において90点以上をA+、80点以上90点未満をA、70点以上80点未満をB、60点以上70点未満をC、60点未満をDと評価する。</p> <p>なお、出席回数が授業全体の2/3未満である場合には、評価の対象としない。</p>
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	特に教科書は指定しないが、参考図書については、授業内で適宜紹介する。
オフィスアワー等(連絡先含む)	オフィスアワーは特に定めないが、メールにて事前連絡をしてから訪問すること
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	環境教育に関心を持ち、野外での活動や実験活動にも積極的であること。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	環境教育、持続可能な開発のための教育(ESD)、持続可能な開発(SDGs)、環境学習、環境思想、環境意識